



平成31年1月31日

岩倉市議会

議長 黒川 武 様

会派名 創政会

代表者名 梅村 均

第1回ワークライフバランスフォーラム in 名古屋

～先生の働き方を考える～

報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 平成30年8月23 (木)
- 2 研修先 ウィンクあいち 1203号教室 (愛知県名古屋市)
- 3 出席人数及び氏名

1名	梅村 均	

- 4 復命事項

別紙のとおり

第1回ワークライフバランスフォーラム in 名古屋報告書（創政会）

～先生の働き方を考える～

作成者：梅村均

【開催日】平成30年8月23日(木)

【会場】ウインクあいち 1203号室（愛知県名古屋市）

【主催者】一般社団法人ワークライフバランス東海

【参加者】梅村均

【概要】「先生の働き方を考える」

第一部 基調講演 講師：東京都千代田区立麴町中学校 校長 工藤勇一氏

第二部 事例紹介 東海地方の学校における働き方改革の事例

ゲストスピーカー：上井靖氏（A-SESSIONS 代表、

名古屋市立八王子中学校 元校長）

中村浩二氏（名古屋市立東築地小学校 教頭）

第三部 ダイアログ・タイム～対話を通して、働き方を見つめ直そう～

※各自の職務内容を見て、削減できそうな職務はないか、見直しが必要な活動等はないかなど意見交換した。

- ・学校がある目的とは、社会の中で生きていくためのコミュニケーション活動、経済活動をするために学校はある。いつしか学習指導要領をやるためになってしまっている。
- ・学び合いのスタイルが世界のスタイル。学び合いとアクティブラーニングはちがう。
- ・一斉に伝えているだけの授業は世の中にない
- ・人は自立^{自律}していないとできなかったことを他人のせいにする。わからないのは先生のせい？このまま大人になっては改善に取り組みなくなる。生徒に考えさせる場を。
- ・修学旅行で決められた所に行くのは、自立をそいでいる教育ではないか。生徒が企画をする。修学旅行の目的は時間を守ることとする。目的は達成するためにたてるもの。
- ・リーダー指導において、すぐダメ出しはよくない。うまくいかないことを教えさせる。
- ・生徒も様々。振り返ることをしないのであればノートをとる必要はない。集中して聞くことを伸ばしてあげてはどうか。
- ・授業内容がわかっているのに宿題は必要ない。
- ・宿題がなければ、先生がチェックする必要もなくなる。（職務時間削減）
- ・大人が勝手に問題としてさわいでいないだろうか。
- ・学習指導要領には合致していることを行う。（はずれてはいけない）
- ・3人のクラスで黒板を使って一斉授業をしているのは他にやり方はないものか。
- ・帰国子女、英語はできている。英語の授業を受けさせることは必要なのか
- ・トム・クルーズは読み書きが苦手。でも立派に活躍している。
- ・タイプするより、フリックの方が早い。今の時代漢字を覚える必要はあるか。
- ・現代社会にマッチしたカリキュラムが必要ではないか。双方向型の学びスタイルを。
- ・3日坊主はがんばらないで、ルーティンにすればよい。

- ・思考ツールの授業も取り入れる。KJ、ブレインストーミング、マインドマップなど。
- ・対立することは悪くない。人は仲良くできない。(コミュニケーションできない子ほっとする)
- ・年中プールを使うよう、水泳講座を開催している。
- ・校内に販売部があり生徒が運営している。外部民間人が面接して採用。オリジナル商品つくろうかといった話もでてくる。
- ・日本人は対話が下手である。民度が低い。→教育で何とかする必要がある。
- ・教育：敵をつくらないように生きることは大事。対立を認めること。
- ・職員会議は全員に関係することしか話題にしない。連絡事項は色分けしてボードに書いておく。(業務時間短縮)
- ・固定担任制の廃止。8人でチーム教育。=時間差通勤も可能になる。保護者と面談する先生は保護者がきめる。
- ・プリントはレターケースに入れる。配布はしない。
- ・鍵の管理について、各自名前付きのキーをつくり、それを刺さないと借りれない方式にした。戻さないと名前付きのキー抜けない。(玄関で傘をさしておくのと似たようなもの) 鍵の紛失を防ぐ。
- ・学校はみんなでするもの。当然エアコンは必要。プロフィットセンターに。
- ・調理実習で陳健一氏が講師に。学校の隣にお店があった関係も。
- ・朝の部活動、正規の体育時間に換算する。
- ・教頭だよりで働き方改革への関心を高める
- ・個人定時退校日申告シートの取組み
- ・理想の1日をデザインする。
- ・通知表の書式変更。所見欄の削除、健康欄(慎重・体重・視力)の削除
- ・17時、18時にチャイムを鳴らす。 ・留守番電話の設置

【所感】

今回、働き方改革や学校の先生の多忙化が課題となっている中(岩倉市内の小中学校でも多忙化解消に向け取り組んでいるところである)、学校現場の現状把握や解決策のヒントになればと思いこのセミナーに参加した。ほとんどの受講者が教員であり、第3部では限られた時間ではあるが、グループディスカッションを行い先生の現場のことを聞くこともできた。基調講演では、麴町中学校長の工藤先生のお話を聞く事ができ、時代にあった教育が必要であり、^得自益に向け、他人のせいにするのではなく自ら考え改善していく力をつける教育方針に魅了された。学校がある目的は、指導要領をこなすことではなく、社会の中で生きてくためのコミュニケーション活動、経済活動をするためである。先生から一方的に教えるだけの一斉授業よりも、学び合いのスタイルこそが、社会のスタイルと同じであるとの言葉が印象的であり考えさせられた。時代は変化しており、改革においては、宿題の在り方などこれまで通例のように取り組まれていることも疑問をもって見直すことが必要かもしれません。